

種名は

Kuromatea glabra (THUNB.) KUDO, *comb. nov.* = *Quercus glabra* THUNB. Fl. Jap. p. 175. としたいと思ひます。終りに、正宗理學士に對し深厚の謝意を表したいと思ひます。

臺灣植物分類雜纂 (7)

(圖版 III.)

佐々木舜一

Miscellaneous contributions to the Flora of Formosa VII.

(Pl. III)

Syun'iti Sasaki

(48) 新植物いこまさう (新稱)

本種は大正十一年七月予の南湖大山一萬二千尺に於て初めて採集せるものなるも、如何なる譯か充分の採品を得ず誠に遺憾とする處であつた。然るに臺灣山岳會の有志を以て組織する、大霸尖山登攀會なるものが昭和二年八月、生駒高常氏を隊長として組織された。勿論大霸尖山なるものには曩に伊藤太右衛門氏が登山して、珍種の採品を齎して學界に數多の寄與をした。然れども同氏の登山は大霸尖山には相違なきも、其の最高點たる中央岩壁の登攀はなし得られなかつた。茲に於て隊員たる生駒、沼井、古平氏等は五百尺に垂んとする、而も蕃人さへなし得なかつた岩壁の初登攀を萬難を排して決行し、遂に此處女峰を征服して數多の新植物を採集し、予に其の悉くを提供された、所謂命懸けの貴重なる材料であつた。本種は數多の植物中の一品であつて生駒氏以下の隊員が犠牲的努力を傾注して學界に寄與された事を思へば、予は萬腔の誠意を表して其の成功を祝福し、併せて當時の隊長たりし生駒氏に對し感謝の意を表せざるを得ない、そこで予は茲に同氏の姓を冠し、本新植物に「いこまさう」の新和名を下し、以て永久の記念とする。

地上莖、基部にらつきやう状の大なる緑色の浅く突出せる、縦線を有する擬莖を有し高さ1メートルに達し、葉は潤大にして頂部に數箇を着け、莖は徑 1 cm あり。花は葉を有する莖の外部より大なる花梗を抽き、高さ 35—70 cm 徑 1.5 cm で上部に 7—17 箇の黄色の花を著生し、中々見事である。

本種は本年南澳リヨヘンにて末吉歳助氏の採集にかゝり、目下臺北の自宅に於て培養中なり、研究に際し種々厚意を寄せ下さつた同氏に對し深き感謝の意を表する。

此の蘭は又本會々員農學士田中庄助氏が曾つて草山でも發見し、目下培養中であるが本年は遂に花を見なかつたさうである。

(50) のうかうすゆきさう (新稱)

中央山脈蕎菜主山南峰の道の原野にこだまぎく *Anaphalis Nagasawai* HAYATA 類似の一草を吾人は見た。曾て松田英二氏が大正八年八月六日能高山で採集したと稱するラベルの入れてあるものがあるので、予は之を *A. Nagasawai* の一變種と認めて未發表のまま林業部腊葉館に所藏して居つた。併し予は昨年蕎菜主山南峰を訪れるに及びて益々疑問を深からしめた。前者の主として乾燥地に叢生するに反し、後者は原野に單立して居り、形態に於ても全然趣きを異にして居る。據つて予は之を精檢して次の記載文を附して一新種として發表する。

Anaphalis transnokoensis SASAKI, sp. nov.

Annual herbs. Stems simply erect, 10-18 cm long, 2.5-4 mm in dim. dense softly woolly throughout. Leaves alternate, sessile, elliptic to long cordate, lanceolate, entire, acute at the apex, base cuneate or semiamplexicaul, 3-4.5 cm long, 0.8-1.5 cm wide, midrib distinctly, more or less succulent. Flowers brightly or semi-transparent white, dense corymbose, terminal. Ligules cochleariform, incurved, rather hard, apex obtuse, base cuneate, little dark brown, 4.5-7 mm long, 1.5-2 mm wide; pappus 2 mm long.

Jap. Nam. Nôkô-usuyuki-sô; (n.n.)

Loc. Mt. Nôkô (E. MATUDA, Aug. 6, 1919, No. 25665); Mt. South Peak of Kiraisyu-zan, 10000 ft. above the sea level (S. SASAKI,

Aug. 24, 1929, No. 28509.)

Endemic plant.

Note: Near *A. Nagasawai* HAY., but differs from it in having simple stems and larger leaves.

因に松田氏の能高山と稱する多くの産地は眞の能高山に非ずして、芥菜主山南峰及横斷道路の沿道の山々を指すにあらずやと思はれる節がある。

(51) まき本島に自生せず

從來吾人は本島に自生する「まき」屬中分布廣汎に亘るものゝ一種にまき *Podocarpus macrophyllus* D. DON の學名を附與して居つた、即ち方言の百日青又は山杉であつて、該種は本島の固有種とがりばまき *Podocarpus Nakaii* HAYATA を當て嵌めることを以て適當に思考する。如何となれば吾人の同種として採集せるものゝ悉くが後者であるからである。勿論多くの栽培品あるこゝは論外とせざるを得ない。

Podocarpus Nakaii HAYATA, Icon. Pl. Formos. VI (1916) 66, Gen. Ind. Fl. Formos. (1916) 74; KANEHIRA, Formos. Trees (1917) 613; SASAKI, List Pl. Formos. (1928) 49.

syn. *Podocarpus macrophyllus* (non D. DON) MATSUM., Ind. Pl. Jap. I¹ (1905) 150, pro parte; MATSUM. et HAYAT., Enum. Pl. Formos. (1906) 398; KAWAKAMI, List Pl. Formos. (1910) 11; Sôzô NAKAI, Formos. Tree (1914) 332; HAYATA, Gen. Ind. Fl. Formos. (1916) 74; KANEHIRA, Formos. Trees (1917) 612, Anat. Char. Ident. Formos. Wood. (1921) 241 et Anat. Char. Ident. Import. Wood. Jap. Emp. (1926) 136, pro parte; MAKINO et NEMOTO, Fl. Jap. (1925) 1546, pro parte.

Hab. Mt. Arei, Taityû (U. MORI, June 1907, No. 2597, 2598); Hokkô-kei & Horisya (C. OWATARI, 1898) in Shed. Imper. Univ. Tokyo; Hori-sya (S. SASAKI, March 1918, No. 2595, 2596); Hokuzankô, Nantô (R. KANEHIRA et S. SASAKI, March, 1918, No. 2599, 2600, 2601, 2602, 2603); Kurayû-sya, Kôsyun (N. KONISI,